

ごめんね、お母さん

「あの人、だれのおばあちゃんかな。」
じゅぎょうさんかん日、友だちの声がした。

「顔、ブツブツしてるね。」

もしかして、お母さんかな
ふりかえると、やつぱりお母さんがいた。

「しんのすけ。おかあさんきてるの。」

「ううん。お父さんがきてる。」

あれから、お母さんはぱったりじゅぎょうさん
かんかにこなくなった。

ぼくのお母さんは、わかくはないし、顔はソ
バカスだらけで、キラキラメイクもしないし、
つけまもしないし、かわいいふくもきない。

みんなのお母さんとはだいぶちがつてみえる。
だけどぼくのお母さんは、お母さんしかないな
い。

ぼくの足の赤アザは
「しんのすけだというマークだよ。」
つてお母さん言ってたね。

「ソバカスは、お母さんのマークだね。」

今どから、お友だちにお母さんきてるつて
聞かれたら、

「あそこだよ。」
つて言うからね。

お母さん。ごめんなさい。

どんなに、お母さんにおこられても、パンチ
されても、せかいでたった一人のお母さん。
大好きだよ。お母さん。